



熊本県、宇土半島にてみかん栽培を営まれているカネケンフルーツ農園の中川様。中川様の作るみかんは「おいしくて何個でも食べられる」と全国のお客様から好評です。今回はみかん栽培の様子とFFCの効果についてご紹介いたします。

## 生産者のお話



中川憲義 様・和代 様

平成13年にFFCと出会い、翌年からみかん栽培へFFC農法を導入するようになりました。FFCと出会えたおかげで、土作りが楽になり、その上、以前よりおいしいみかん作りができるようになりました。今では農業だけでなく普段の生活でもFFC製品が生活の一部となっており、なくてはならないものとなっています。私たちのみかんを楽しみに待って下さるお客様の輪も広がり、全国から多くの嬉しいお声をいただいています。安全で安心なおいしいみかんを皆さんに食べていただき、幸せを感じていただけるようなみかん栽培を今後も心がけていきたいと思います。

## カネケンフルーツ農園様の主な生産品目

- ・温州みかん
  - ・レモン
  - ・スイートスピング
  - ・ポンカン
  - ・デコポン
  - ・きよみ
  - ・はるか
  - ・パール柑
  - ・はるみ
- など…



年間を通して柑橘の栽培、収穫、出荷をされています。品種によって作業内容や時期は異なります。



## FFC活用方法とみかんの栽培工程～温州みかんの場合～

### 剪定



収穫時期が終わった2~3月に剪定しています。

### 除草



1年を通して7回行います。大変な労力がかかりますが、安全で安心なみかんを作るため、除草剤は使用しません。この作業が栽培管理の中で大きな割合を占めています。

### 葉面散布



年に2回行います。みかんの花が咲き始める3月~4月の間に1回目の葉面散布を行います。2回目は実が大きくなり、熟し始める前の9月~10月ごろに行い、成り疲れた樹勢を回復させます。

春と秋にパイロゲンの1000希釈水を散水します。



### 病害虫の防除

5~7月を中心に病害虫の防除を年間5~6回\*行っています。また、成熟期~収穫までに害虫(カメムシ、アザミウマ等)が発生した際に緊急防除を1回行います。

\*みかんが緑色からオレンジ色へ変わった成熟期には農薬は一切使いません。また、年間5~6回という回数は、一般的なみかん栽培での防除回数より大変少ない回数です。詳しくは右記「FFC活用の効果」をご覧ください。

### 施肥



剪定時に切り落とした枝を粉碎機で木くずにし、堆肥化させ、みかんを収穫した後の11~1月ごろ、2月ごろ、5~6月ごろの合計3回、果樹のまわりに撒きます。



#### FFCエースの散布

6月ごろに、木の根元に1反あたり4袋の割合で撒きます。梅雨の時期に雨水を利用してことで、FFCの情報を効率よく土に伝えます。

### 収穫!



10月~12月ごろを中心収穫、出荷します。

### カネケンフルーツ農園様のこだわり

#### FFCエースの袋で苗づくり

苗づくりをFFCエースの袋で行っています。樹勢が良くなり、植え替えの作業がしやすくなりました。



#### J.Aあまくさの堆肥

防除後に樹勢が大きく落ちたレモンやみかんには、「あまくさ堆肥\*」を使用し、樹勢を回復させます。



コクがあり、酸味と甘みのバランスがとれた最高のみかんです！



\*FFC元始活水器が導入されている養豚場で作られ、JAあまくさで販売されている堆肥です。

## FFC活用の効果

### 団粒構造が形成され、ふかふかの土になった

FFCエースを使うことにより堆肥の熟成が早まり、団粒構造が形成されやすくなりました。FFCエースを活用する前は、機械(コンプレッサー)で空気を土に直接入れ、土を柔らかくしていました。FFCエースを使うようになってから、団粒構造が形成されるようになったため、その大きな手間が掛からなくなり、作業が楽になりました。



チップ化した木くずが土壤の腐植を進め、良質の土になります。

### 農園の生き物が豊かに

一般的なみかん栽培では、病害虫の防除の回数は年間22回。熊本県の「特別栽培」の認定基準はその半分の11回弱です。カネケンフルーツ農園様は、その半分の5~6回！もちろん防腐剤は使用していません。FFCエースを活用することで、少ない防除の回数でも樹勢は強く、甘くおいしいみかんが実るようになりました。

住みよい環境になったためか、天敵のヒヨドリやカラス、イノシシなども頻繁に出没するようになり、みかんをかじっていくことも。このようなことも、カネケンフルーツ農園様のみかんが安全、安心でおいしいことの表れではないでしょうか。



### みかんの葉にツヤが出た



FFC使用

FFC未使用

カネケンフルーツ農園様

慣行栽培の農家

一般的なみかん栽培で育てられているみかんと比べると、明らかに葉のツヤに違いが見られました。土の団粒構造が形成され、植物が光合成しやすい環境になったためと考えられます。